

室内環境学会法人会員満足度等調査報告

室内環境学会社会連携委員会

1. はじめに

室内環境学会社会連携委員会は、学会の活性化・社会貢献を図るために国内の他機関や諸外国の学協会等と共同で行う事業に係わる業務を執行することを目的として活動を行っている。この中の学会活性化、さらには学会の社会貢献のあり方を検討するための一環として、室内環境学会法人会員を対象とした調査を実施した。法人会員からの意見を通して、今後、室内環境学会の社会連携活動として目指すべき方向性を考えていく資料とすることを目的としたものである。

以下で調査の概要と集計結果を報告する。

2. 方法

平成23年11月末現在で室内環境学会に法人会員として会員登録している55団体を対象とした。社会連携委員会で作成した調査票を平成23年12月12日に郵便にて発送し、無記名での回答を依頼した。回答済みの調査票は、返信用封筒に入れ、平成24年1月13日までに投函してもらうよう依頼した。なお督促などの対応は特には行っていない。質問の項目は、室内環境学会学術大会への参加状況・機器展示状況、室内環境学会から得られる各種情報は役に立っているか、今後の学会活動に望むこと、などである。

3. 結果

平成24年1月13日までに32法人会員からの回答を得た（回収率58%）。回答の遅延はなかった。回答していただいた法人の内訳は、建築関係5法人、環境測定機器関連8法人、設備機器関連5法人、環境計測関連3法人、NPO等2法人、その他（開業医、行政関係、化学メーカー、家電製品製造、検査機関など）9法人であった（図1）。また回答した方の所属部署は、総務／事務6名、営業4名、研究／開発12名、企画5名、その他4名であった。

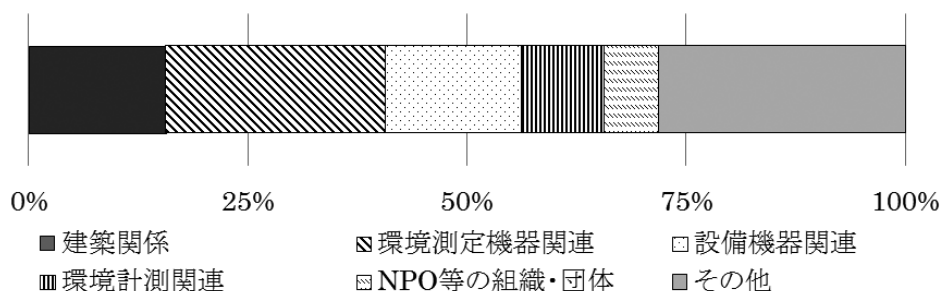


図1 回答いただいた法人の内訳

法人会員になってからの年数は、1年未満が1法人、1年以上5年未満が8法人、5年以上10年未満11法人、10年以上が11法人、退会後再入会されたのが1法人であり、継続して法人会員となっていたという傾向が認められた（図2）。

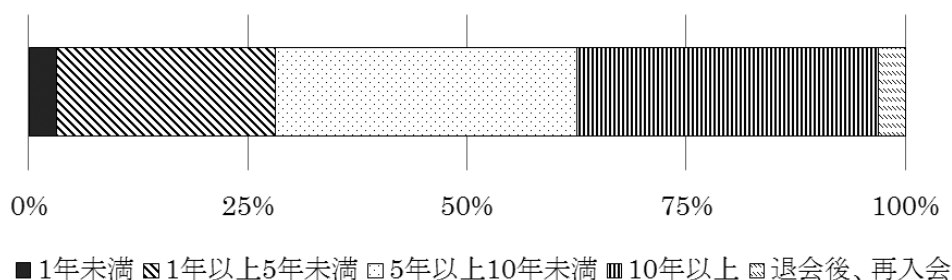


図2 法人会員になってからの年数

法人会員年会費の額について尋ねたところ、十分安い、またはかなり高いと回答した法人は無かった。比較的安いのが3法人、妥当な額であると回答したのが15団体、やや高いのが13団体であった（図3）。

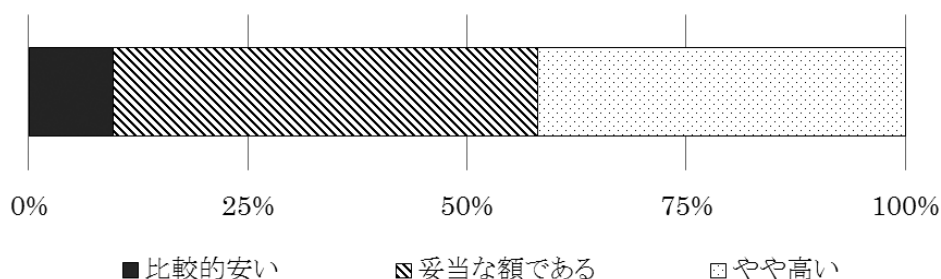


図3 法人会員会費について

室内環境学会の法人会員になった主な理由を尋ねたところ、室内環境研究に関する情報収集（学会誌入手を含む）が27法人、自社製品等のPR、室内環境学会学術大会への出席がそれぞれ1法人、研究者との交流が3法人であった（図4）。

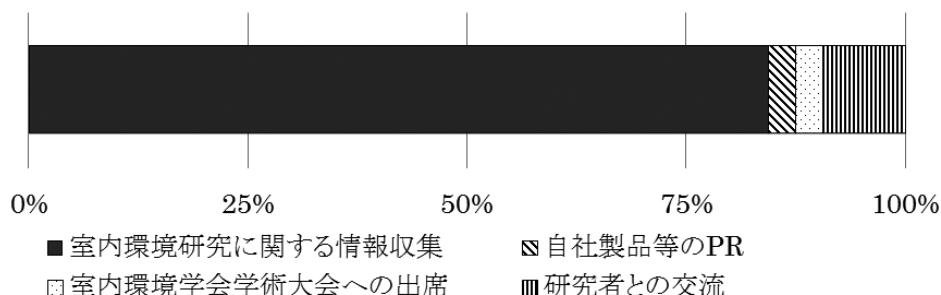


図4 室内環境学会の法人会員になった主な理由

室内環境学会学術大会への法人会員としての参加状況を尋ねたところ、ほぼ毎年参加していると回答したのが12法人、ほぼ隔年参加が2法人、数年に一度程度参加が9法人、ほとんど参加したことはないという回答したのが8法人だった（図5）。

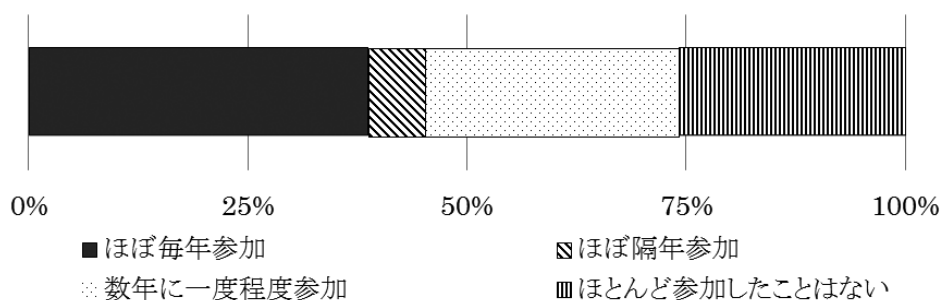


図5 室内環境学会学術大会への参加状況

室内環境学会学術大会での機器展示歴を尋ねたところ、ほぼ毎年展示と回答したのが5法人、ほぼ隔年展示が1法人、数年に一度程度展示が2法人、ほとんど展示したことはないと回答したのが23法人であった(図6)。

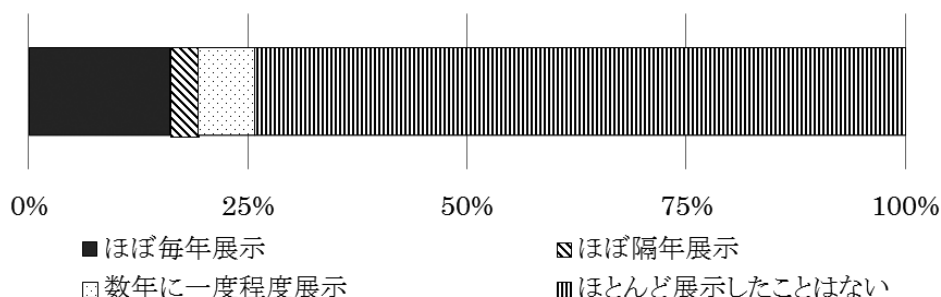


図6 室内環境学会学術大会での機器展示歴

室内環境学会で法人のPR(製品も含む)が出来ているかどうか尋ねたところ、おおむねPRできていると回答したのが1法人、多少はPRできているが6法人、あまりPRできていないが9法人、まったくPRできていないが6法人、PRする予定はないと回答したのが9法人であった(図7)。

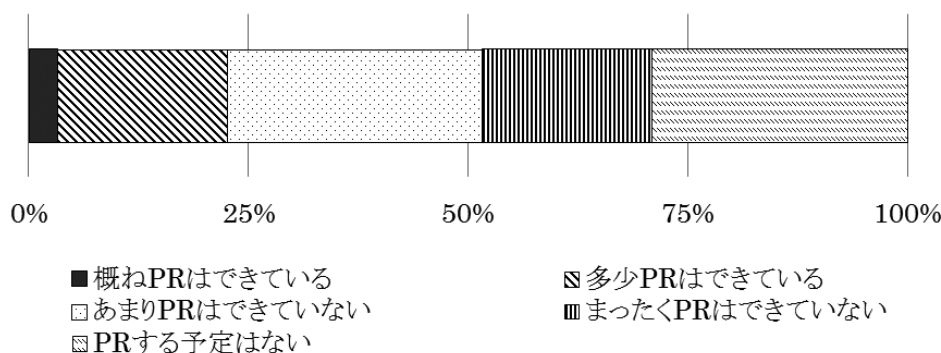


図7 室内環境学会で法人のPR状況

人的交流について、室内環境学会が役に立っているかどうかを尋ねたところ、十分役に立っていると回答したのは5法人、多少役に立っているが20法人、あまり役にたっていないが1法人、人的交流は考慮していないと回答したのが6法人だった(図8)。

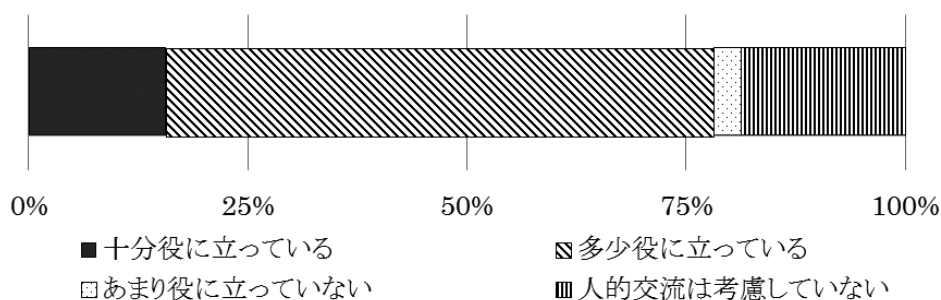


図8 室内環境学会は人的交流に役立っているか

室内環境学会学術大会・学会誌で得られた情報が、役に立っているかどうかを尋ねたところ、十分役に立っていると回答したのが5法人、多少役に立っていると回答したのが25法人、あまり役にたっていないと回答したのが1法人であり、ほとんど役にたっていない、情報収集・活用は考慮していないと回答した法人はなかった（図9）。

どのような点があまり役に立っていないのか具体的に記載してもらったところ、「測定技術，データ中心にまとめられており，逆に発生を抑える技術や代替化学品の情報が見られない」とのことで，改善方法については，「化学メーカーの学会加入自体が異色かもしれないが，現在の学会とは方向性が違うのかも知れない」との回答があった。

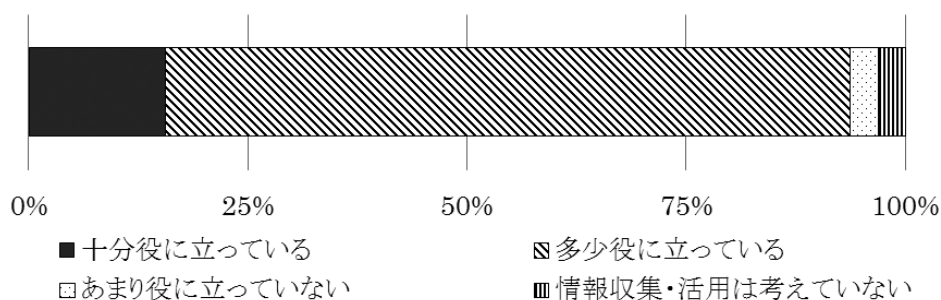


図9 室内環境学会学術大会・学会誌で得られた情報は役に立っているか

室内環境学会の情報収集や人的交流の場や内容に関して，他学会との総論的な比較で尋ねたところ，優れていると回答したのが1法人，やや優れているが9法人，あまり変わらないが18法人，やや劣るが2法人，かなり劣ると回答したのが2法人，その他1法人であった（図10）。

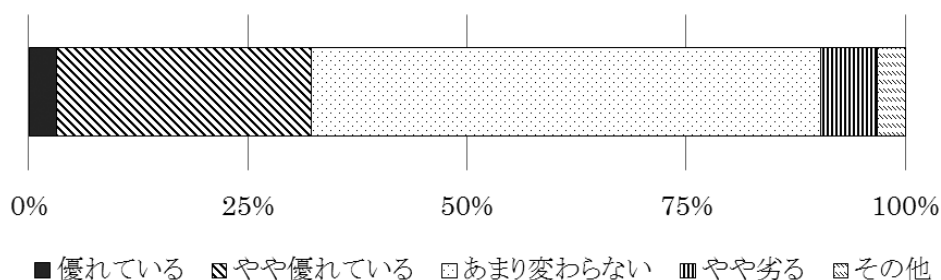


図10 室内環境学会の情報収集や人的交流の場や内容に関する他学会との比較

室内環境学会が今後取り組むべき、または取り組んだ方がよいと考える領域について、自由に書いてもらった。いただいた意見は以下の通りである（図11）。

- 大気汚染と花粉アレルギーの関係について、気道の機能に影響する環境因子について
- 厨房施設における有害物質と除去技術（室内空間に於ける有意情報）
- 室内環境を監督する行政組織と連携を密にして、よりよい居住環境やより良い測定法について研究を深める場になると良い。水質や環境大気に対する行政の取り組みは異状なほどに細かいのに、一番重要な室内大気に対する取り組みが遅れていることに危惧している。
- 化学物質に対する規制の提言
- 内装や構造に木材を使った場合の室内環境へ良いほうへ働くかその影響があれば取り組んで欲しい。
- 一般の方は、空気質の重要さが十分に理解されていないように思います。一般の方へのわかりやすいツールや、新築時のチェック方法などをPRすることで、メーカーの動機づけになると思います。
- 化学品の発生（放散）をおさえる工夫、代替化学品の情報があればよいのですが。
- 室内環境（単に温度、湿度だけでなく、視覚や臭覚等も含む）と人の健康への影響調査
- 室内環境基準の法的な確立
- 企業の研究者同士の交流会の場を設けて欲しい。
- 喫煙環境の改善に関する技術および評価
- 大会という年に一度の顔合わせだけではなく、企業・団体の交流大会を中間の4月～6月に入れてはいかがでしょうか。（3,000円程度）学会に求めるものを聞き出す場として有効ではないでしょうか。
- 室内における喫煙のあり方について関心が高まっている社会的状況から、喫煙者と非喫煙者の共存に向けた分煙技術に関する研究
- 中立的な立場から、室内・屋外におけるたばこ煙曝露に関する実態を調査する研究
- 現状で充分

図11 室内環境学会が今後取り組むべき、または取り組んだ方がよい領域

室内環境学会が社会に役立つ学会としてさらに発展するために、今後どのような点について取り組んでいけばよいのか、また取り組むべきであるかについて、自由に回答してもらった。以下のようなご意見をいただいた（図12）。

- 生体影響因子を防ぐ方法の確立など
- におい、かおり環境協会との連携による最新情報の交流等
- 国へのアプローチ
- 国内外の関連法規や規格制定等の動向や予定が前広に分かると有益な情報となりえる。
- マイナス面を追求することも大切ですが問13のようにプラス面をPRして、社会的産業的に後押しいただけると助かります。(木造住宅メーカーですが)
- 学会案内が一週間前に会報誌わかる程度のためメールなどで一か月前などに案内をいただいたほうが参加しやすいです。
- アレルギー性物質測定、対策。放射性物質測定。代替化学物質提案。室内放散の低減化技術。
- 研究成果を実際の現場に役立てる方法、活用方法にも重点を置いてほしい。
- 化学物質だけに関わらず、快適性や人間の心理的効果（音、光、臭い、香り等）等についても幅広く取り組んでもおもしろいのではないのでしょうか
- 今の時代なので、ツイッターを利用して良き情報を発信してはいかがでしょうか。
- 学会の地位立場（存在）を一般的に広めることで、学者・企業・団体の参加者が増すことができ、発展につながると考えます。
- ワーキンググループを企業・団体からも立ち上げられるようにすると良い。
- 弊社としましては、問13に回答させていただいた通り、喫煙者と非喫煙者の共存のあり方について社会的な関心が高まっていると認識しています。
この観点から、分煙ならびにたばこ煙曝露の実態を明らかにしていくことは、非常に有意義であると考えています。
- 特になし

図12 室内環境学会が社会に役立つ学会となるために必要となってくる事項

質問の最後に、上記までの趣旨とは異なるが、学術大会時の付随行事などとして室内関連企業・施設等の見学会を計画することを社会連携委員会として検討しており、見学会を実施した場合の協力可能性を尋ねた。見学可能との回答をいただいたのは2法人、要相談が14法人、見学不可能が14法人、その他1法人であった（図13）。

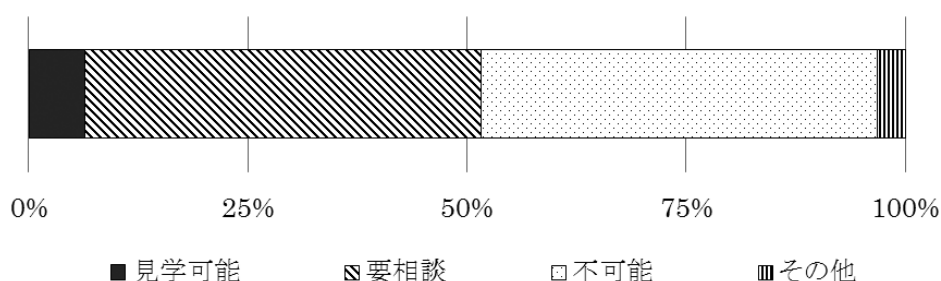


図13 室内関連企業・施設等の見学会実施の際の協力について

4. まとめ

今回、主に社会連携を中心とした室内環境学会のあり方をさぐることを目的とし、法人会員を対象とした調査を初めて実施した。まず調査にご協力いただいた法人会員の皆様に御礼申し上げます。

調査結果から、全般的により幅広い観点からの研究、さらにはより現場で具体的に有用となる手段等に関する情報発信が求められていることが示唆された。さらには、学会誌での論文や学術大会の参加などを含めて、法人としての学会活動への参加意義や学会との関わり方を検討していく必要があることが示唆される結果となっていた。

研究活動と社会貢献の位置づけをどのように考えていくかについては、実践的な側面をも多くもつ室内環境学会の大きな課題であることには間違いない。今回の調査結果をどのように活かしていくかについてまだ明確に方針を定めているわけではないが、またただちに対応できるかどうか確約できるものではないが、たとえば図12に書かれているように、ワーキンググループを企業・団体から募集するなどの試みを通して、研究的側面と実践的側面との融合、また実生活の中で求められている事項とのマッチング作業を、全面的ではないにせよ何らかの形で進めていく必要があると思われる。

なお、最後の質問項目にも挙げたが、学術大会等の付随行事として関連施設の見学などを検討している。情報共有も含めて、もしご協力いただけるのであれば改めてお願いしたいと考えている。

今回のような調査を実施するだけでなく、学会のあり方、また学会と社会をつなぐためにはどうしたらよいかを今後とも探っていく、よいと判断できることはどんどん具体化していきたい。ご意見等何かありましたら、社会連携委員会（学会事務局宛）までお願いします。

室内環境学会法人会員各位

拝啓 師走の候、貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より室内環境学会をご支援いただきましてありがとうございます。

さて、室内環境学会社会連携委員会は、学会の活性化・社会貢献を図るために、国内の他機関や諸外国の学協会等と共同で行う事業に係わる業務を執行することを目的として活動を行っております。

この中の学会活性化、さらには学会の社会貢献のあり方を検討するための一環として、室内環境学会法人会員の皆様からご意見をいただくことを通じて、今後、室内環境学会の社会連携活動として目指すべき方向性を考えていきたいと思っております。

お忙しいところ大変恐縮ですが、上記の趣旨をご勘案の上、同封いたしましたアンケートにお答えいただき、平成24年1月13日(金)までに同封の返信用封筒に入れ投函して下さるようお願い申し上げます。

皆様からいただきました回答については社会連携委員会で統計的に集計・解析の上、平成24年6月発行予定の学会誌「室内環境」にてご報告させていただくとともに、社会連携委員会等で内容について議論し今後の室内環境学会運営に活かしていく予定であります。

ご協力のほどよろしくお願いたします。来年もまた、ご指導賜りますようお願いいたします。

敬具

平成23年12月12日

室内環境学会 社会連携委員会
委員長 中井里史（横浜国立大学）

本調査について質問等がありましたら、下記までE-mailにて遠慮なくお問い合わせください。

問い合わせ先： 室内環境学会気付 社会連携委員会

info@siej.org

他の学会宛メールと区別するために、件名（Subject）に「社会連携委員会調査の件」とご記入ください

室内環境学会法人の皆様へ

以下の質問の該当する回答に○をつけてください。一部の質問には、直接回答をご記入ください。

問1. 貴社・貴団体の主な業務内容を教えてください。

1. 建築関連
2. 環境測定機器関連
3. 設備機器関連
4. 環境計測関連
5. NPO等の組織・団体
6. その他（具体的に： _____）

問2. この調査票に回答されている方の部署をお教えてください。

1. 総務/事務
2. 営業
3. 研究/開発
4. 企画
5. 生産
6. その他（具体的に： _____）

問3. 室内環境学会の法人会員になられた理由でもっともよく当てはまるものを、下記から1つ選んでください。

1. 室内環境研究に関する情報収集（学会誌入手を含む）
2. 自社製品等のPR
3. 室内環境学会学術大会への出席（発表を含む）
4. 研究者との交流
5. その他（具体的に： _____）

問4. 法人会員になられてどのくらい経ちますか。

1. 1年未満
2. 1年以上5年未満
3. 5年以上10年未満
4. 10年以上
5. 退会後、再入会（再入会後の年数： _____ 年）

問5. 法人会員年会費の額についてどのようにお考えでしょうか。

1. 十分安い
2. 比較的安い
3. 妥当な額である
4. やや高い
5. かなり高い
6. その他（具体的に： _____）

問6. 室内環境学術大会には、法人会員としてどのくらい参加していますか。

1. ほぼ毎年参加
2. ほぼ隔年参加
3. 数年に一度程度参加
4. ほとんど参加したことはない
5. その他（具体的に： _____）

問7. 室内環境学術大会で、機器展示をされたことがありますか。

1. ほぼ毎年展示
2. ほぼ隔年展示
3. 数年に一度程度展示
4. ほとんど展示したことはない
5. その他（具体的に： _____）

問8. 室内環境学会では十分に貴社・貴団体のPR（製品も含む）は出来ていますか。

1. おおむねPRできている
2. 多少はPRできている
3. あまりPRできていない
4. まったくPRできていない
5. PRする予定はない

問9. 室内環境学会は貴社・貴団体の人的交流に役立っていますでしょうか。

1. 十分役に立っている
2. 多少役に立っている
3. あまり役にたっていない
(どのような点が： _____)
4. ほとんど役にたっていない
(どのような点が： _____)
5. 人的交流は考慮していない

問10. 室内環境学会学術大会・学会誌で得られた情報は、貴社・貴団体の役に立っていますか。

1. 十分役に立っている
2. 多少役に立っている
3. あまり役にたっていない
(どのような点が： _____)
4. ほとんど役にたっていない
(どのような点が： _____)
5. 情報収集・活用は考慮していない

問11. 問9または問10で、「あまり役にたっていない」「ほとんど役にたっていない」と回答された団体にお尋ねします。どのような点を、どのように改善した方がよいお考えでしょうか。下記に自由に書いてください。

問12. 室内環境学会の情報収集や人的交流の場や内容は、他学会と比べていかがでしょうか。個々の学会との比較ではなく、総論的に回答ください。

1. 優れている
2. やや優れている
3. あまり変わらない
4. やや劣る
5. かなり劣る
6. その他（具体的に： _____）

問13. 貴社・貴団体にとって、室内環境学会が今後取り組むべき、または取り組んだ方がよいと考える領域はどのようなものでしょうか。下記に自由に書いてください。

問14. 室内環境学会が社会に役立つ学会とさらに発展するためには、今後どのような点について取り組んでいけばよいのか、また取り組むべきとお考えになりますでしょうか。忌憚ないご意見をいただければと存じます。

問15. 社会連携委員会では、学術大会時の付随行事などとして、室内関連企業・施設等の見学会を計画することを検討しております。もし見学会を実施した場合、貴社・貴団体を訪問・見学することは可能でしょうか。

1. 見学可能
2. 要相談
3. 不可能
4. その他（具体的に： _____）

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。